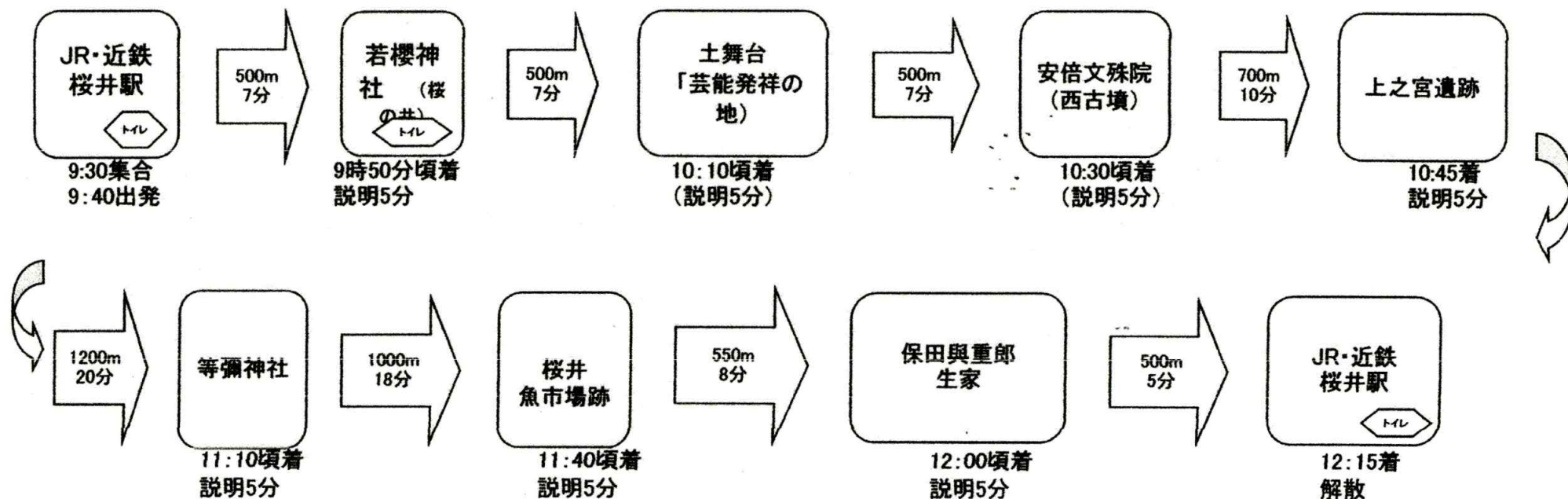


JRふれあい ハイキング DISCOVER WEST

万葉ゆかりの地

磐余の宮跡を訪ねる



伊勢街道沿いの商店街や商家の歴史的街並みを辿り、知恵の文殊様で知られる安倍文殊院や桜井の名のもとになった「桜の井」など見どころ満載のコースです。

(徒歩 約5.7Km)

開催日：平成31年4月から令和2年3月までの
第3日曜日 (延べ12回)

※以上の時間、距離はおおよその目安で表示しております。実際の時間とはずれる場合がございます。
※各名所旧跡等でボランティアガイドの方の説明があります。

山の辺の道 ハイキングコース



石上神宮
歴代の天皇の崇敬が厚く、神庫には多くの武器が収められ、武器についての伝承が多い神社で、神功皇后の摂政52年に百済の使者が献じたという七支刀(ななつさやのたち)(国宝)も伝えられている。祭神は布都御魂大神(ふつのみたまのおおかみ)といわれる神剣。奈良朝以前から神宮の号を使ったのは伊勢神宮とここだけである。



内山永久寺跡
永久2年(1114)に鳥羽天皇の勅願により興福寺大乗院頼実が創建。盛時は52坊を誇ったが、神仏分離で廃寺となった。南北朝時代、後醍醐天皇が吉野遷幸のとき立ち寄ったとされる萱の御所跡と本堂池だけが残る。



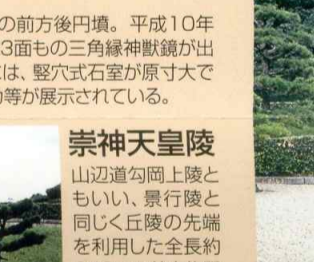
夜都伎神社
春日大社の4神を祀り、拝殿の萱葺き屋根が珍しい。バス停への道に建つ鳥居は嘉永元年(1808)に春日若宮から移したものである。



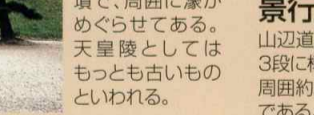
大和神社
山の辺の道より西に位置し、鬱蒼とした森が広がり350mもの参道を抜けると、大和神社がある。4月1日には、大和にいち早く春を告げる「ちゃんちゃん祭」が行われる。また、9月23日には、市無形民俗文化財に指定されている、雨乞満願の「紅幣(べいしで)踊り」が奉納される。



黒塚古墳
柳本古墳群の一つで、全長約130mの前方後円墳。平成10年(1998)に、卑弥呼の鏡ともいわれる33面もの三角縁神鏡が出土した。隣接する黒塚古墳展示館内には、堅穴式石室が原寸大で復元されており、鏡や鉄製品のレプリカ等が展示されている。



崇神天皇陵
山辺道勾岡上陵ともいい、景行陵と同じく丘陵の先端を利用した全長約242mの前方後円墳で、周囲に濠がめぐらせてある。天皇陵としてはもっとも古いものといわれる。



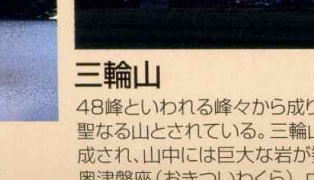
景行天皇陵
山辺道上陵ともいい、丘陵の先端を利用して3段に構築された前方後円墳。全長約300m、周囲約1キロに濠をめぐらせた堂々たる古墳である。



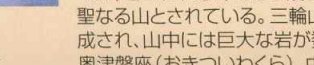
相撲神社
穴師坐兵主神社参道脇にあり、相撲発祥の地と伝えられている。旧蹟カタヤケシがあり、野見宿禰が祀られている。



三輪山
48峰といわれる峰々から成り、笠を伏せたような山容が美しい。古代からもっとも聖なる山とされている。三輪山は、春日山系では珍しく斑瀾岩(はんらいがん)で形成され、山中には巨大な岩が数多く露出している。これらの岩石群は、山頂付近の奥津磐座(おきついわくら)、中腹の中津磐座、山麓の辺津磐座というように呼ばれ、



箸墓
大きな前方後円墳。全長280m、後円部の直径は157m、高さ22m。前





夜都伎神社
春日大社の4神を祀り、拝殿の萱葺き屋根が珍しい。バス停への道に建つ鳥居は嘉永元年に春日若宮から移したものである。



竹之内・萱生環濠集落
奈良盆地には環濠集落が多いが、竹之内は標高約100mで、県内ではもっとも高地にあるとされる。南北朝時代から筒井順慶による統一まで、大和の戦国乱世が生んだ自衛の集落で、周囲に用水池を兼ねる濠を、内部に竹やぶを植えこんだ。竹之内のほか、萱生にも同様の集落が残る。

大和神社
山の辺の道より西に位置し、鬱蒼とした森が広がり350mもの参道を抜けると、大和神社がある。4月1日には、大和にいち早く春を告げる「ちゃんちゃん祭」が行われる。また、9月23日には、市無形民俗文化財に指定されている、雨乞満願の「紅幣(べいし)で踊り」が奉納される。



長岳寺
9世紀に淳和天皇の勅願を受けて弘法大師が開いたと寺伝にいう古刹で、釜口山上にあるところから「釜の口のお大師さん」としても知られている。盛時には42の堂宇を数えたといわれるほどだが、幾度かの兵火や神仏分離にあった。



黒塚古墳
柳本古墳群の一つで、全長約130mの前方後円墳。平成10年(1998)に、卑弥呼の鏡ともいわれる33面もの三角縁神獣鏡が出土した。隣接する黒塚古墳展示館内には、堅穴式石室が原寸大で復元されており、鏡や鉄製品のレプリカ等が展示されている。



崇神天皇陵
山辺道勾岡上陵ともいい、景行陵と同じ丘陵の先端を利用した全長約242mの前方後円墳で、周囲に濠がめぐらしてある。天皇陵としてはもっとも古いものといわれる。

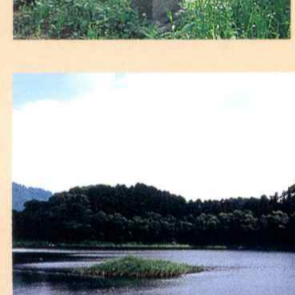
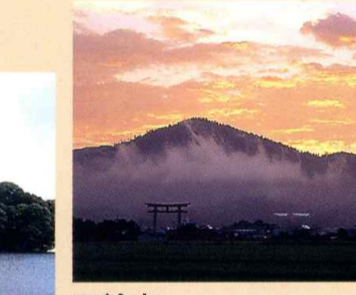
景行天皇陵
山辺道上陵ともいい、丘陵の先端を利用して3段に構築された前方後円墳。全長約300m、周囲約1キロに濠をめぐらせた堂々たる古墳である。



相撲神社
穴師坐兵主神社参道脇にあり、相撲発祥の地と伝えられている。旧蹟カタヤケンがあり、野見宿禰が祀られている。



桧原神社
大神神社の摂社のひとつで、三輪山中にある磐座を神体としているので本殿はない。天照大御神を祀り、元伊勢とも呼ばれている。井寺池周辺には川端康成、東山魁夷などの万葉歌碑が立ち、空間の中にとけこむような風情を見せている。



三輪山
48峰といわれる峰々から成り、笠を伏せたような山容が美しい。古代からもっとも聖なる山とされている。三輪山は、春日山系では珍しく斑瀾岩(はんらいがん)で形成され、山中には巨大な岩が数多く露出している。これらの岩群は、山頂付近の奥津磐座(おくついわくら)、中腹の中津磐座、山麓の辺津磐座というように呼ばれ、それぞれの磐座には大物主神、大己貴神、少彦名神が鎮まるといわれている。

善墓
大きな前方後円墳。全長280m、後円部の直径は157m、高さ23m。前方部の幅は25m、高さ13m。孝靈天皇の皇女で崇神天皇の叔母であった倭迹迹日百襲姫(やまとととひもそひめ)命の墓である。周囲には周濠の一部がいまも残っている。



大神神社
三輪明神ともいい、背後の三輪山を御神体とするわが国最古の神社。御諸山または神体山ともいわれ、古くから聖なる山、神の山として崇められており、三輪山神話として記紀にも登場することが多い。



玄賓庵
玄賓僧都の庵。もとは三輪山の桧原谷にあつて、山岳仏教の寺として栄えたが荒廃し、寛文7年(1667)に比丘夏光が中興した。明治維新の神仏分離で現在地に移っている。



金屋の石仏
金屋の村はすれにある収蔵庫に蔵められている2体の石仏。いずれも高さ2.14m、幅83.5cm、厚さ21.2cmの2枚の泥板岩に釈迦如来像(右)、弥勒如来像が浮彫りにされている。平安時代でも後期の造立と考えられる。



平等寺
明治の神仏分離で完全に廃絶した。明治13年(1880)に翠松寺として旧平等寺の山門付近に再建され、昭和52年にもとの「平等寺」に復している。本堂、不動堂のほか、江戸時代の仏足石などがある。

仏教伝来之地碑
欽明天皇の時代に百済の聖明王の使節が訪れ、釈迦仏の金剛像一軀と経論若干巻等を献上し、日本に仏教を最初に伝えたといわれている所。また、海柘榴市観音堂を含むこの一帯を日本最古の市のあった海柘榴市跡と呼び、山の辺の道の南の起点、到着点。



- 2.9km 50分
- 長岳寺
- 1.4km 20分
- 景行天皇陵
- 2.5km 40分
- 桧原神社
- 1.5km 35分
- 大神神社
- 1.1km 15分
- 海柘榴市観音
- 1.9km 30分
- 桜井駅



■山の辺の道石標
●道標
WCトイレ

至上本町 桜井市役所 桜井市市前 桜井市 観光案内所 至高・王寺 近鉄大南線 本町通ルート